

「きっこのブログ」の紹介は余談でBSEが本題 <http://kikko.cocolog-nifty.com/>

4年前の秋、日本で初めての狂牛病が騒がれたときの事です。忘れもしない東京の地下鉄は、丸ノ内線「四谷三丁目」の駅のすぐ上にある丼物のファーストフード店。「国産牛肉はっさい使用しておりません」というノボリを掲げていたのです。コノヤロウ!

その店では、これから「米国産牛肉はっさい使用していません」というノボリが立つのか、それとも牛丼チェーンの某吉野屋なみに安全より儲け、「米国産牛提供開始!」とでもノボリが立つのか…ついでがありましたら誰か見て

きてください。と頼んでみたくなったりする今日この頃、皆さんいかがお過ごしですか?

…というフレーズを有名にしつつある「きっこのブログ」を皆さんご存じですか? 耐震偽造問題をめぐって気を吐いていておすすめです。アドレスは、<http://kikko.cocolog-nifty.com/>

というのは余談。本紙での話題はBSEです。さる12月12日に開かれた北茨城市議会での一般質問のなかから、とある一コマを紹介します。

米国産の牛肉は使用しない

茨城県の学校給食

[鈴木やす子議員] BSEの発生で停止していた米国産牛肉の輸入再開を受けての市の対応について質問します。

今回、輸入再開に安全のお墨付きを与えたとされているのが、内閣府の食品安全委員会の答申です。印刷すると89ページの文書ですが、その「結論」の部分には次のように書かれています。

“リスク管理機関から提示された輸出プログラムが遵守されるものと仮定した上で、米国・カナダの牛に由来する牛肉等と我が国の全年齢の牛に由来する牛肉等のリスクレベルについて、そのリスクの差は非常に小さいと考えられる。”

ここから政府は、「リスクは小さい」という部分だけを抜き出して、輸入しようというわけです。しかし、それには、「きちんと管理されていると仮定すれば」という前提がついているのです。

さらに、その前段で答申は、“米国・カナダに関するデータの質・量ともに不明な点が多いこと、管理措置の遵守を前提に評価せざるを得なかったことから、米国・カナダのBSE リスクの科学的同等性を評価することは困難と言わざるを得ない。”と書いています。

つまり、安全かどうか評価することは困難だというのが本当の結論な



獲物

のです。にもかかわらず、アメリカの言うことなら何でも「YES」と言って従ってきた自民党公明党の小泉政権が、国民の食と健康まで売り渡してしまおうとしています。こうした実態に強い憤りを覚えるものです。

なお答申ではふれていませんが、BSEは日本人にとって感染率は欧米人より断然高いという研究結果も出されています。BSEから感染した変異性ヤコブ病患者の遺伝子を調べたら全員がMM型遺伝子で、そのタイプの遺伝子をもつ人はヨーロッパでは40%でいどですが、日本人は93%だそうです。

百歩ゆずったとしても米国産牛肉はグレーゾーンです。少なくとも学校給食には米国産の牛肉は使用すべきではないと考えます。市当局の明確な答弁を求めます。

[市教育次長] 全国電話世論調査の結果、米国産牛肉を食べたいと思わない人が75.2%に上ることが新聞報道により明らかになっています。

北茨城市学校給食センターで使用している牛肉は、茨城県学校給食会から購入しており、産地はBSE問題の発生する前からオーストラリアです。今後ともその方針であるとのことでした。